

イエバエ

分類：ハエ目(双翅目)イエバエ科

学名：*Musca domestica*

英名：House fly



■解説¹⁾

本種は、衛生害虫として世界で最も普遍的なハエである。世界中、ヒトの住んでいるところならば、どのような場所でも生息しているといわれているが、自然環境よりも、ヒトの密集している都市型の環境の方が生息密度も高い。成虫はミルクや果汁のような糖分を含む食物に好んで集まる。雌は幼虫の食物となる動物糞やごみの中の食物残渣に産卵する。産卵場所として割れ目などを選び、産卵管を挿入して、ときには全卵を、また一般には歩きながら場所を変えて数個から10数個を分散して産卵する。

■体長

卵：長径約1mm²⁾
幼虫：約2mm(1齢)、約4mm(2齢)、
約11mm(3齢)²⁾
蛹：—
成虫：4～8mm²⁾

■産卵数

産卵数/生涯：平均450個⁴⁾
産卵数/1回：平均120個¹⁾

■ライフサイクル

卵：72～96時間(10℃)²⁾
12～24時間(25℃)³⁾
8～12時間(30℃)³⁾
幼虫：約1～1.5日(1齢)、1日(2齢)⁴⁾
3～8日(3齢)⁴⁾
蛹：3～5日(35℃)⁴⁾
成虫：25～50日(25℃)⁴⁾

■発育零点(発育停止温度)

11℃¹⁾

【参考文献】

- 1) 松崎沙和子・武衛和雄. 都市害虫百科. 朝倉書店. 1993, p.140-143
- 2) 和田義人・篠永哲・田中生男. ハエ・蚊とその駆除. 日本環境衛生センター. 1990, p.6
- 3) 林晃史・篠永哲. ハエ生態と防除. 文永堂. 1979, p.79
- 4) 篠永哲. 原色ペストコントロール図説 第三集. 日本ペストコントロール協会. 厚生省生活衛生局監修. 1990, p.42-10-42-11